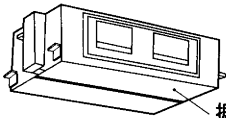
高静圧ダクト形据付説明書

本機は制御箱内に内蔵のファンコントローラのボリュームにより連続的に風量を調節することができます。
使用ポイントが下記に示す風量限界内に入るよう調節をしてください。（ファンコントローラの操作要領は下面にあります。）
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気工事の方法は、裏面をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
リモコンは別売です。

据付時にこの面が下になります。

PJD012D005

安全上の注意

●据え付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、⚠警告、⚠注意 に区分していますが、誤った据え付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に ⚠警告 の欄にまとめて記載しています。しかし、⚠注意 の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●据え付け工事完了後、試験運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管頂くように依頼してください。

⚠ 警告

●据え付けは、お買上げの販売店又は専門業者に依頼してください。ご自分で据え付け工事をされ不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。
●据え付け工事はこの据え付け説明書に従って確実に行ってください。据え付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度を超える恐れのある場合は、対策が必要です。限界濃度を超えない対策については販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故につながる恐れがあります。
●据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。強度が不足している場合は、ユニットの落下により、ケガの原因になります。
●台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行ってください。据え付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
●配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
●配線は、浮き上がらないように整形し、リッド・サービスパネルを確実に取り付けてください。取り付けが不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を混入させないでください。空気等が混入すると、冷凍サイクル内が異常に高圧になり破裂、ケガの原因になります。
●設置工事部品は、必ず付属部品および指定の部品を御使用ください。当社指定品を使用しない場合は、水漏れや感電、火災、冷媒漏れの原因になります。
●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をしてください。
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●設備工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

⚠ 注意

●アースを行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電の原因になることがあります。

●設置場所によっては漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わないでください。
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
●ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると、水漏れし、家財等を濡らす原因になることがあります。

お願い

○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
●油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
●病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
●潮風が当たる所。（海浜地区）外板、熱交換器の腐食の原因となります。

⚠ 注意

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
●直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
●アースを取ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は誤作動や感電の原因になることがあります。
●漏電ブレーカの取り付けが必要です。漏電ブレーカが取り付けられていないと感電や火災の原因となることがあります。
●エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を越える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取付けが必要となりますので、お買上げの販売店にご相談ください。

〈お願い事項〉
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

① ドレン関係				
1	ホースクランプ		1個	ドレン配管用

② フレアナット部断熱用				
1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

工事完了後、これだけは再チェック願います。

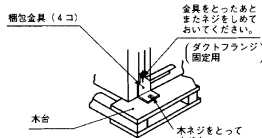
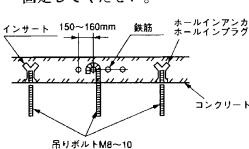
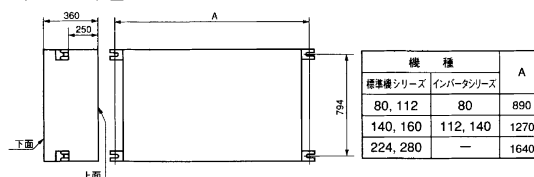
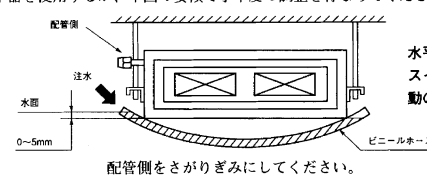
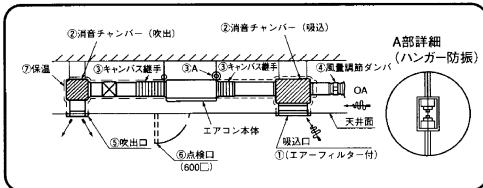
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

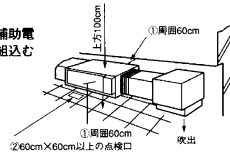
据付場所の選定

空気条件・風量限界

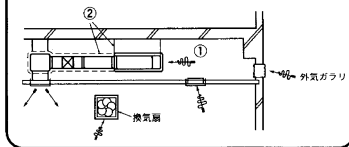
(50Hz/60Hz)

標準機シリーズ	インバータシリーズ	風量 m³/min 定格	風量 m³/min 下段	風量 m³/min 上段	室内ユニット吸込空気温度 冷房	室内ユニット吸込空気温度 暖房	室内ユニット周囲の空気温度
80	—	20/24	15/18	25/16	上限24℃WB 外温35℃のとき 下限16℃WB 外温15℃のとき	上限27℃DB 外温20℃WB以下 下限10℃DB 外温−10℃WB以上	上限 露点温度28℃以下 相対湿度80%以下 下限 0℃DB
112	80	27/32	20/24	34/35			
140	112, 140	34/40	26/30	43/44			
160	—	41/48	31/36	52/53			
224	—	51/60	38/45	65/66	くわしくは弊社発行の技術資料を参照願います。		
280	—	68/80	51/60	87/88			

ユニットの搬入、据付

ダクト工事

①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。
　掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
②消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
　特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。（事務所、会議室などでは必ず取付けること）
③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
④OAダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風力調節ダンパを取付けてください。
⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。
　保温材の厚さは65mm（JISA9501）です。

〔重要〕
オプション補助電気ヒータを組込むときの注意

①可燃性の部分から周囲60cm、上方にあっては100cm（1メートル）以上の距離を保つこと。
②電気ヒータが有効に点検できる位置に1辺の長さが60cm以上の大きさの点検口を設けること。

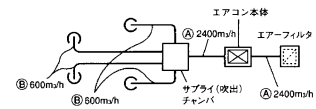
〈重要〉
オプション補助電気ヒータを組込むときはパッケージエアコンを取付ける前に「火を使用する設備等の設置届」を作成し、所轄の消防署等に届出をおこない、審査又は検査を受けること。届出書は左記①②の他に防火対象物の案内図、設置する階の平面図、立体図、構造図、室内仕様表、付属設備図などの図面が必要です。

ダクト施工の悪い例

①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
（イ）ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
　ユニットは上表の空気条件及び風量限界内で使用してください。
　コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなることがあります。
　この場合はユニット全体をグラスウール（25mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
（ロ）ユニットの運転限界（例：外温35℃DBのとき吸込空気温度24℃WB）をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
（ハ）換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
②ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

〈簡易ダクト寸法選定図〉

1PA/m（0.1mmAq/m）

風量 ＼ 項目 ＼ ダクトの形	角ダクト 寸法
m^3/h（m^3/min）	（mm×mm）
100	250× 60
200	250× 90
300	250× 120
400	250× 140
500	250× 170
Ⓑ部 ● 600(10)	250× 190
800	250× 230
1,000	250× 270
1,200(20)	250× 310
1,400	250× 350
1,600	250× 390
1,800(30)	250× 430
2,000	250× 470
Ⓐ部 ● 2,400	250× 560
3,000(50)	250× 650
3,500	250× 740
4,000	250× 830
4,500	250× 920
5,000	250×1000
5,500	250×1090
6,000(100)	250×1180

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉
ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を1Pa/m（0.1mmAq/m）として、ダクトは一辺が250mmのものを使用する場合の方法を示します。
140、60Hz定格風量の場合を例とします。

	風量	ダクト（mm×mm）
Ⓐ部	$2400m^3/h$（$40m^3/min$）	250×560
Ⓑ部	$600m^3/h$（$10m^3/min$）	250×190

○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

直管部	長さ1m当り1Pa（0.1mmAq）で計算する1Pa/m（0.1mmAq/m）
曲り部	曲り部1ヶ当り直管に直して3～4mとする
吹出部	25Pa（2.5mmAq）で計算する
チャンバ	1個で50Pa（5mmAq）で計算する
吸込グリル（フィルター付）	1個で40Pa（4mmAq）で計算する

ファンコントローラ操作要領

○本気は電装品箱に内蔵のファンコントローラのボリュームにより、連続的に風量を調節することができます。
　ダクト側でのダンパ等による風量調節（機外静圧調整）は必要ありません。
　使用ポイントが運転可能風量範囲内となるように設定してください。（上記の風量限界を参考としてください。）
　右図にファンコントローラの電装品箱内の位置と操作のしかたを示します。
○事前に別途技術資料にて発行されている送風機特性にてファンコントローラのボリュームNOを選定してください。
　電気工事終了後の試運転に選定したボリュームNOを右図の要領に従って合わせて、所要風量がでているかご確認ください。

このつまみを回してください。
（ボリュームNo.1～8で制御）

このコネクタがプリント基板のコネクタと接続されています。
コネクタNo.1－R相
コネクタNo.2－S相
コネクタNo.3－ファンモータ コモン回路

このコネクタはファンコントローラが故障した場合の緊急バイパス用コネクタです。
このコネクタをプリント基板からのコネクタと接続すると100%運転ができます。

ファンコントローラ

ファンコントローラの操作のしかた

注）ファンコントローラを操作する際は、充電部に触れる恐れがあるので必ず電源を切ってください。

電装品箱での位置

（140の電装品箱を代表例としています。ファンコントローラの位置は他の機種も同様です。）

フレアナット締付トルク
ϕ 6.35：14～18(N・m)，(1.4～1.8kg・m)
ϕ 9.52：34～42(N・m)，(3.4～4.2kg・m)
ϕ12.7：49～61(N・m)，(4.9～6.1kg・m)
ϕ15.88：68～82(N・m)，(6.8～8.2kg・m)
ϕ19.05：100～120(N・m)，(10～12kg・m)

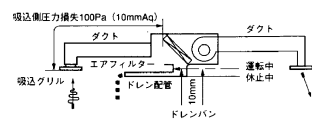
ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水もれします。
●ユニットの配管端部のフレアナットは必ず2丁スパナで取り外し配管接続は2丁スパナでしっかりと締め付けてください。
●フレアナット接続時は、フレア背面部に冷凍機油を塗り、最初は3回～4回手回しでネジ込んでください。
●配管は下記材質のものをご使用ください。
　なお別売配管セットを使用されると便利です。
　（材質）リン脱酸銅継目無銅管
　（C1220T、JIS H3300）
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。

バンド（付属品）
パイプカバー（付属品）

ドレン配管

○ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし途中山越えを作らないようにしてください。
○ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
○ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP－25を使用してください。
○複数台のドレン配管の場合左図のように、本体ドレン出口より100mm以上下に集合配管がくるようにしてください。
　また集合管はVP－30以上を使用してください。
○室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。

ご注意　ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。

例：上図の様に吸込グリル、エアーフィルター、ダクトの吸込側の圧力損失が100Pa（10mmAq）あるとすれば運転中のドレン水位は停止中に比べ10mm上昇します。

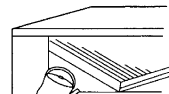
〈トラップの施工〉
ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水もれを防ぐため設計上、トラップを（配管工事のとき）1ヶ所設けてください。
トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。下図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも下図の様な寸法としてください。
トラップはユニットの近くに設けてください。

●ドレン配管の途中に1箇所、左図のようなトラップを設けてください。

H1=100mm又は送風機の静圧
$H2=\frac{1}{2}H1$又は50～100mm

排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。

○サイドパネルをはずし、ドレンパンに1000c.c.の水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。
　又、水洩れのないことをご確認ください。

電気配線工事

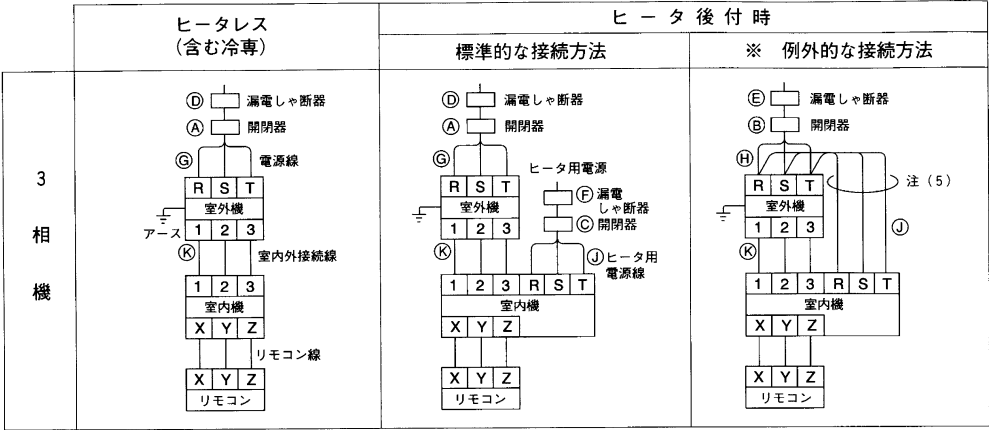
電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規定に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

シングル機の結線

①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りはできません。(ヒータ用電源は除く。)
※例外的な接続方法の場合は所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
②室内外接続線及びリモコン線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。

開閉器・配線仕様

〈シングル機：ヒータレス〉

注 (1) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規定により配線太さを見直してください。
Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(2) **室内外接続線 Ⓚ は総長70mまでとしてください。**

	室外形式		漏電しゃ断器 (A)	開閉器 (A)	配線太さ φmm又はmm² (配線こう長) 注 (1)		アース線	
			Ⓓ	Ⓐ	Ⓖ	Ⓚ 注(2)	太さ φmm又はmm²	ねじ
ヒータレス(含む冷専)	3相	80	30A 30mA, 0.1秒以下	30	5.5 (31)	φ1.6	φ1.6	M5
		112		30	5.5 (25)	φ1.6	φ1.6	M5
		140	40A 30mA, 0.1秒以下	50	5.5 (21)	φ1.6	φ2.0	M5
		160		50	5.5 (20)	φ1.6	φ2.0	M5
		224	50A 100mA, 0.1秒以下	50	8 (24)	φ1.6 (49)	φ2.0	M5
		280	60A 100mA, 0.1秒以下	60	14 (31)	φ1.6 (43)	5.5	M6

	室外形式		漏電しゃ断器 (A)	開閉器 (A)	配線太さ φmm又はmm² (配線こう長) 注 (1)		アース線	
			Ⓓ	Ⓐ	Ⓖ	Ⓚ 注(2)	太さ φmm又はmm²	ねじ
インバータ・ヒータレス	3相	80	30A 30mA, 0.1秒以下	30	5.5 (30)	φ1.6	φ1.6	M5
		112	40A 30mA, 0.1秒以下	50	5.5 (21)	φ1.6	φ1.6	M5
		140		50	5.5 (21)	φ1.6	φ2.0	M5

〈シングル機：ヒータ後付時〉

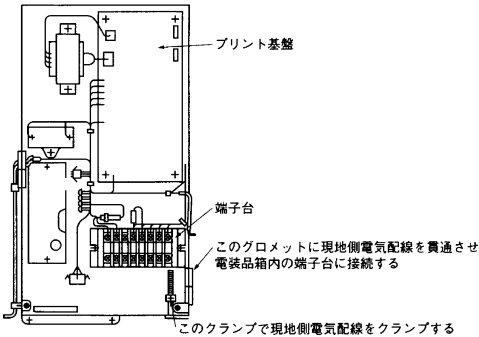
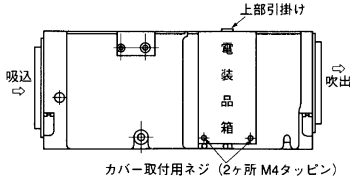
注 (3) Ⓐ Ⓓ Ⓖ Ⓚ の仕様については上表のヒータレスと同一です。
(4) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規定により配線太さを見直してください。
Ⓙの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(5) **室内外接続線 Ⓚ とヒータ用電源線 Ⓙ は必ず別ケーブルとしてください。**

(50／60Hz)

	室外形式		漏電しゃ断器 (A)		開閉器 (A)		配線太さ φmm又はmm² (配線こう長) 注 (4)		アース線	
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓗ	Ⓙ 注(5)	太さ φmm又はmm²	ねじ
ヒータ後付時	3相	80	30A 30mA, 0.1秒以下	15A 30mA, 0.1秒以下	30	30	5.5 (24／24)	φ1.6 (31／31)	φ1.6	M5
		112	40A 30mA, 0.1秒以下		50	30	5.5 (20／20)	φ1.6 (26／26)	φ2.0	M5
		140			50	30	8 (27／27)	φ1.6 (22／22)	φ2.0	M5
		160	50A 100mA, 0.1秒以下	20A 30mA, 0.1秒以下	50	30	8／14 (22／38)	φ2.0 (26／26)	φ2.0	M5
		224	60A 100mA, 0.1秒以下	30A 30mA, 0.1秒以下	100	30	14 (34／30)	5.5 (30／30)	5.5	M6
		280	100A 100mA, 0.1秒以下		100	30	22 (43／41)	5.5 (26／26)	5.5	M6

	室外形式		漏電しゃ断器 (A)		開閉器 (A)		配線太さ φmm又はmm² (配線こう長) 注 (4)		アース線	
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓗ	Ⓙ 注(5)	太さ φmm又はmm²	ねじ
インバータ・ヒータ後付時	3相	80	30A 30mA, 0.1秒以下	15A 30mA, 0.1秒以下	30	30	5.5 (23)	φ1.6 (26)	φ1.6	M5
		112	40A 30mA, 0.1秒以下		30	30	5.5 (20)	φ1.6 (22)	φ1.6	M5
		140			50	30	8 (26)	φ1.6 (22)	φ2.0	M5

電装品箱位置及び電気配線接続

(1) 電装品箱位置

(2) 電装品箱カバーの取りはずし方
カバー下部のカバー取付用ネジ2本をはずして
上部の引掛けをはずすとカバーがはずれます。

Ⓑ リモコン

リモコンは別売です。

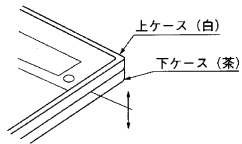
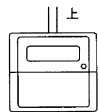
リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

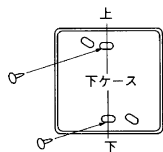
1）直射日光の当る場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

取付要領

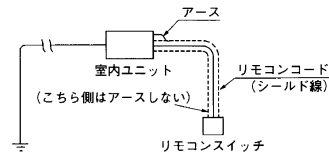
露出取付

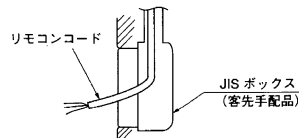
①リモコンケースをはずしてください。
●側面上方の上ケース（白）と下ケース（茶）に爪を掛け溝を広げはずします。

②リモコンコードの取出し方向は、下図のように上方向のみ可能です。

（コード取出し方向）

●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。

③リモコン下ケースを付属の木ネジ2本で壁に取付けます。

④リモコンコードを端子台に接続してください。室内ユニットとリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子台には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
⑤室内機の機種に応じて機能の設定をしてください。
機能の設定 の項をご覧ください。
⑥上ケースを元通り、下ケースにはめ込みます。
⑦リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C（京阪電線）〕
注（1）延長距離が100mを越える場合は下記のサイズに変更してください。
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕
● JIS C 8336 1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下：客先手配品）でJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
注） 露出取付け の項をご覧ください。
⑤室内機の機種に応じて機能スイッチの設定をしてください。
機能の設定 をご覧ください。
⑥上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。

Ⓒ 機能の設定

□ 囲み工場出荷時の設定

切換スイッチの設定（基板側面）

スイッチ	設定	機能の内容
機種切換	冷	冷房専用機に使用する時
SW1	**ヒ**	ヒートポンプ機対応
リモコンセンサ	有	リモコンセンサを使用する時
SW2	**無**	無効（室内機センサー有効）
停電補償	有	停電補償機能有効にする時
SW3	**無**	無効（停電時は初期設定）
リモコン	子	子リモコン（親子リモコン制御）
SW4	**親**	親リモコン

ジャンパ線の設定

風量切換	開放	風量2速の機種 急⇔弱
ジャンパ J2	**短絡**	風量3速の機種 急⇔強⇔弱

吸込温度表示	開放	温度表示を消したい時
ジャンパ J1	**短絡**	吸込温度表示をする時

スイング表示	開放	ルーバー位置表示をしない
ジャンパ J4	**短絡**	ルーバー位置表示をします

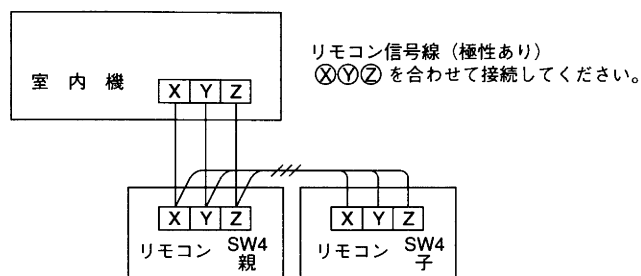
（オートスイング無しのリモコンは、J4はありません）

タイマ機能	開放	タイマーを無効にする時
ジャンパ J3	**短絡**	タイマー機能を選択できます

本機は風量2速です。ジャンパJ2を開放にしてください。

D 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。

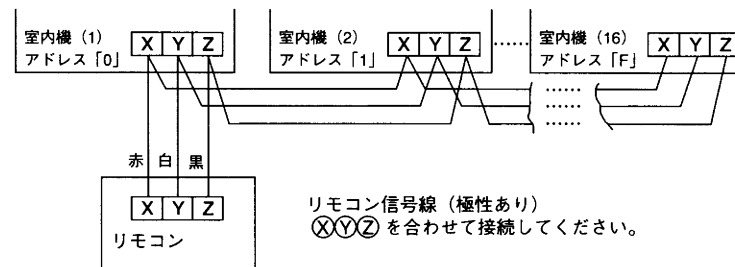
①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。

②子リモコンの切換スイッチSW4を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。

（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

E 1リモコンによる複数台室内ユニット制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。

②室内基板上のロータリースイッチSW1により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

③電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを必ず確認してください。

F 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

①「運転」ボタンを押して、運転する。

②「モード」スイッチにより冷房を選択する。

③「▽」スイッチと「セット」スイッチを同時に押す。
設定温度が5℃になり、室温表示部が、室内熱交温度情報に変わります。

表　示	室内熱交温度
n3	24℃以上
n2	16～24℃
n1	8～16℃
n0	8℃以下

●試運転時、正常に動作しない場合は、室内・外ユニットに貼付の結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。